

# 『総合人間学』（オンラインジャーナル） 執筆要領（2025 年度版）

総合人間学会編集委員会

2025 年 8 月 9 日

本要領は学会誌『総合人間学』（オンラインジャーナル）の執筆の仕方を定めるものである。投稿に際しては、本要領を熟読し、各項目を厳守すること。本要領に従っていない原稿は受理できない場合がある。なお、各種委員会、大会、研究会などの報告も本要領に準じること。

## 1 書式

原稿の執筆には原則として Microsoft Word を用い、以下の設定に合わせるものとする。（Microsoft Word が使用できない場合は汎用的なテキスト形式でも可とする。）

- 用紙：A4 横書き
- 文字数と行数：40 文字 × 30 行
- フォント：英数字以外は MS 明朝、英数字は Century（10.5 ポイント、このフォントがない場合は類似のフォントで 10~11 ポイント）

ただし、この書式指定は査読の公平性を期し、執筆における統一を図るためのものであり、組版時のレイアウトとは異なる。掲載時は仕上がり 20 ページ以内が目安である。

## 2 タイトル、氏名の記載

1 ページ目 1 行目にタイトルを、またサブタイトルがある場合は改行してサブタイトルを記す。タイトル、サブタイトルは中央揃えにして、12 ポイント、太字にする。次に英文タイトルを記す。タイトルの次の行に氏名を記す。氏名は右寄せにして、本文と同じ 10.5 ポイントにする。

### 3 要旨およびキーワードの記載

氏名の下に1行空けて、要旨、その下にキーワード、その後2行空けて、本文を開始する。

### 4 ページ番号

ページの下に、「ページ数/総ページ数」の形式でページ番号を記す。

### 5 構成

章番号と節番号には半角数字を用いる。(例:1. 2. , 1.1 1.2, 1-1. 1-2. など)

丸数字 (①、②...) 等の機種依存の文字、ローマ数字 (I、II...、i、ii、iii、iv...)、ひらがな、カタカナは使用しない。

### 6 箇条書き (リスト表示)

- 記号付き箇条書きは、原則として黒丸を用いる。
- 番号付き箇条書きは、アラビア数字とアルファベット、およびそれと両カッコ ( ) の組み合わせで表示する。ローマ数字とカタカナ、および片カッコは使用しない。
- 見出し付き箇条書きは、[見出し]... のように表示する。
- 本文中で箇条書きの項目を参照する場合には、紛れが生じないように記号・番号などと参照の仕方に注意する。

### 7 引用

- 本文中での短い引用は、引用文の後に出典を (著者名 発行年: ページ) のように記す。  
(例)

... 本文... 「...引用文...」 (ランシエール 2005:24)

- 長文の引用は、引用の前後を一行空け、左を2文字インデント、右詰めて記述する。  
(例)

『我輩は猫である』は夏目漱石の長編小説にして処女小説である。1905年（明治38年）1月、『ホトトギス』にて発表された。その書き出しはこうである。

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番癡悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。

## 8 図表

### 8.1 図（写真）

- 小さな単独の図（写真）はテキスト幅の半分以下に縮小して本文回り込みで表示する。
- 複数の図（写真）を並べる場合には拡大縮小し、横並びの場合は図（写真）の高さを、縦並びの場合は幅を揃えて整列させる。
- 図には1、2、3……のように通し番号とキャプションを図の下部につける。
- 図内の注は図の下部につける。

### 8.2 表

- ワードの作表機能を用いるか、エクセルで作成して原稿に貼り込む。
- 表を画像に変換して貼り込まない。
- 列数や列内の文字が多い表は、全体のフォントサイズを小さくしたりセル内で折り返したりして、テキスト幅に収める。
- 表には1、2、3……のように通し番号とキャプションを表の上部につける。
- 表内の注は表の下部につける。

### 8.3 その他

- 本文内での図表の参照は通し番号を用いる。写真や史資料についても、これに準ずる。（「次の図」「下の表」などの相対指定ではなく、「図1」「表2」などのように絶対指定する。）
- 図表は、必要に応じて編集委員会側でトレース、拡大縮小、再作成されることがある。

- 組版に際して図表は原則としてページの天地に配置する。そのため、図表の大きさ、章・節のタイトル、改ページと関係して、原稿通りの位置にはならないことがある。
- 掲載が決定した場合、本文中に記載した図表等は、オリジナルデータ（jpg、png 等）も別途提出する。提出先は編集委員会のメールアドレスとする。

## 9 注

- 後注として、本文内では上付き文字で (1)、(2)、(3) と注を示し、本文の後に 一行空けて **[注]** と太字で記した上で、次の行から (1)、(2)、(3) ……の形式で表記する。
- ワードを使用する場合は、脚注機能の後注（文末脚注）を用いてもよい。（ワードの脚注機能では注番号の操作は面倒なため、カッコなしの数字のままでもよい。組版時、注番号は上記のように処理される。）

## 10 参考文献

- 参考文献は、文末脚注の後に一行空けて **[参考文献]** と太字で記した上で、次の行から記載する。
- 記載は和文献、外国文献の順とし、またそれぞれ執筆者のアイウエオ順、アルファベット順に並べる。
- 欧文書籍のタイトルはイタリック体とする。
- URL の情報は、記事の URL（閲覧日）のように記述する。URL の転記には誤りのないように十分に注意する。また、深いディレクトリに置かれている記事や二バイト文字をエンコードした長い URL は字数制限やレイアウトにも影響するので十分に注意する。URL の短縮形を用いてもよい。

(例)

マクルーハン, H.M. J (1986) 『ゲーテンベルクの銀河系 — 活字人間の形成』 森常治訳、みすず書房  
 総合人間学会趣旨 新版 (2019) [http://synthetic-anthropology.org/?page\\_id=1932](http://synthetic-anthropology.org/?page_id=1932)  
 (2025.08.09 閲覧)  
 McLuhan, H.M. (1962) *The Gutenberg Galaxy: The Making of Typographic Man*, Routledge & Kegan Paul

## 11 自著からの引用等

査読の妨げにならないよう、執筆者表記の他は本文中に氏名、所属等、執筆者を同定できる情報を記載しない。また、自著を引用する場合にはその他の文献と同様に表記し、「拙著」等の表現は用いない。

## 12 著者情報

論文末尾に著者名のかな表記、所属、専門分野、e-mail アドレスを入れる

(例) [きたざと たろう／津田大学／哲学／sogo@gmail.com]

## 13 本文の表記

1. 文章は「である」調とし、分かりやすい表現にする。
2. 和文における句読点は「、」「。」を用いる。
3. 常用漢字、現代かなづかいとする。
4. 特殊文字の部分（ウムラウト、アクセント、ルビ、圏点、ハングル、簡体字、繁体字など）はマーカーで印をつける。
5. 日本語の強調は（傍点ではなく）圏点を用いる。
6. ルビは、水戸<sup>みとみつくに</sup>光圀（みとみつくに）などのように、読みを括弧に入れて後置する。（読みは文字数には含めず、組版時に削除される。）
  - ルビの文字配置（左詰め、中央、右詰め、均等など）に注意する。
  - ただし、ルビの組版は個別作業になるので、ルビは必要最小限度にとどめる。
7. 全角文字、半角文字を適切に区別する。
  - 番号（ナンバリング）や年号は半角数字が望ましい（平仮名で番号や年号をタイプして変換すると全角になる場合があることに注意）。
  - 本文中では不用意に全角スペース（全角アキ）は使用しない。
  - 段落頭の一文字下げと改行は全角スペースではなく、それぞれタブキーによるインデントとリターンキー（エンターキー）を用いる。
  - 全角スペースは不可視の一文字として扱われるため、不用意に使うと編集作業で思わぬミスが発生する可能性がある。
8. 年号は原則として西暦年に統一し、半角数字で表記する（数字の後に「年」を追加する必要はない）。ただし、特に必要がある場合は、それ以外の年号の併記も可とする。
9. 数値に関しては半角数字（1、2、3……）で表記する。ただし、「第一、第二、第

三……」、また「一つ、二つ、三つ……」等については漢数字を用いること。

10. 専門分野の異なる読者にも伝わるよう難解な専門用語は避け、また必要に応じて説明を加える。
11. 当該分野でのみ通じる略号は使用しない。

## 14 その他

1. 上記の執筆要項に従っていない原稿は受理できない場合がある。
2. 提出された原稿は、その表記に関してのみ、編集事務局にて修正を加える場合がある。
3. 掲載された原稿の著作権は、掲載された時点から本学会に帰属する。執筆者本人を除き、本学会の許可なくして複製することを禁ずる。J-Stage に掲載された記事の利用は J-Stage の利用規程に従うものとする。
4. 投稿にあたっては、投稿論文の内容が「二重投稿」に該当しないことを必ず確認するとともに、倫理面に十分配慮する。
5. 査読結果に対する異議申し立ては、編集委員会にて審議する。
6. 掲載決定後、研究者番号（e-Rad、ORCID など）をわかる範囲で提出する。

本規定は、2017年6月10日より実施する。（2022年7月、2023年7月、2024年9月、2025年8月改定）なお、投稿に当たっては、必ず本学会サイトにて最新の情報を確認すること。

## 連絡先

総合人間学会編集委員会

編集事務局メールアドレス: [editor@synthetic-anthropology.org](mailto:editor@synthetic-anthropology.org)（編集幹事）